

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101861		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	今泉ケアセンターそよ風		
所在地	栃木県宇都宮市中今泉四丁目22番1号		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人目標を掲げ、毎日、目標達成に向けた取り組みを行っています。また、月に1回以上の外出・週に1回以上の大きなレク活動を行い、充実した生活が送れるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市中心市街地の東部に位置し、近隣に図書館や住宅、商業施設などがあり閑静で利便性に恵まれた事業所である。地域密着型介護事業所を全国展開している法人が運営しており、法人のスローガンである「共生共助の精神で共生社会を実現」を基にホーム独自の理念である「その人らしく楽しくゆったりとした生活を支援していきます。いつも笑顔を忘れず元気に過ごしましょう」を日々のケアの中で実践に努めている。一人ひとりの個性を尊重し、尊厳やプライドに配慮しながら各人の生活状況に応じた個別ケアの実現に向けた取り組みを行っている。また、各人ごとに短期・長期の目標を定め、毎日の散歩やホーム内でのレクリエーション、地域活動への積極的な参加を通じて、より充実した生活が送れるよう支援している。さらに法人のスケールメリットを活かし介護保険やケアに関する情報が容易に入手できる体制にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念・スローガン・事業所としての理念を念頭に置き、全員が取り組んでいる。	法人のスローガンを基に、「利用者の個性に応じたゆったりと元気な生活を支援していく」というホーム独自の理念を、事務室等に掲示している。理念を毎日の朝礼で唱和し、念頭に置きながら個々のケアの中で実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や日々の散歩を通じ、地域の方々との交流が図れるよう、努めている。	自治会の盆踊りやコミュニティセンターの催し物などの地域行事に参加するとともに、毎日の散歩や毎月の保育園児との交流、併設のデイサービスセンター利用者との交流などで、地域の人たちと触れ合う機会が多くなるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内での勉強会実施や、介護者教室の企画をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況報告や、実施したレク活動・イベントの報告を行い、民生委員・地域包括職員の方からの意見を吸い上げ、次回に生かしている。	会議は利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター等が参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の生活状況やホームの活動状況、評価結果などを報告するとともに、参加者からの具体的な助言・要望を受け、利用者へのサービス向上に努めている。	ホームの広報紙を活用することなどで、より多くの家族や地域住民に参加を促す働きかけを期待したい。また、議題を設定し引き続き警察署や消防署の参加を呼びかけ意見交換を行うなど、利用者の安心安全な生活に活かす工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との関係作りは出来ていない。今後、運営推進会議への参加や、相談が出来るような関係を構築していきたい。	地域包括支援センターに運営状況や利用者への支援状況等を報告し、意見交換や助言を得るなど協力関係を築いている。また、市担当者とは介護保険関連手続き等で連絡しているが、円滑な連携協力関係の構築が今後の課題となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット出入口は、安全への配慮で施錠しているが、事務所を通じて両ユニットへの行き来は出来るようになっている。玄関については、夜間を除き施錠していない。	身体拘束や言葉による拘束をしないケアについて十分な理解を深めるため、毎月のミーティングや日常のケアの中で意識の高揚に努め、全職員が拘束を排除した支援に努めている。玄関は昼間は施錠は行わず職員の見守りで利用者の安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関係資料を事務所に設置し、全員へ周知徹底している。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係資料を事務所内に設置し、全員へ周知徹底しているが、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基に、細かい部分の説明や疑問点がないかを必ず確認し、契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のコミュニケーションや毎月のお手紙を通じ、出来る限り反映するよう、プランの見直しも行いながら実施している。	利用者の生活状況等を毎月家族に通信し、面会時にコミュニケーションを図り、意見・要望の把握に努めている。また、意見箱を設置して気軽に意見・要望等を表せられる機会を設けている。出されたものを職員間で話し合い、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームミーティングや全体会議に管理者・センター長・管轄の責任者が出席をし、意見を吸い上げている。	毎月の全体会議やミーティングで職員の意見や提案等を聴く機会を設け、必要に応じて個別に面談し意見等を吸い上げている。利用者の残存機能を生かす取り組みなどの提案は職員間で話し合い運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更改時の面接や、勤務中にコミュニケーションを図りながら、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修要綱は必ず全職員へ周知し、出来る限り参加が出来るよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内グループホーム協議会を通じ、他センターよの情報共有や問題解決が出来ている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の解消と共に、ご本人が好きな事・得意な事などを聞きながら、これまでの生活スタイルにより近い日々が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を考えた理由や、自宅で困っていた事・要望を聞き、生活に慣れるまでは特にまめな連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活に慣れる事の他に、ご本人が必要としている事をご家族に確認しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般の事は、ご本人とスタッフが一緒に行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子は、良い事・悪い事を含めきちんと報告し、情報を共有しながら支援出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院や外出をご家族にも対応していただき、これまでの関係が継続していけるよう努めている。	これまでの地域社会との関わりを把握している。主に家族と一緒に馴染みの美容室や飲食店等への外出を支援し、これまでの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時のユニットの選択や、必要に応じてユニット変えを行うことで、馴染みの関係が築けるような環境作りをしている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい施設での生活はどうか、何かあったらいつでもお電話下さるよう、相談出来る環境作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活状況・ご本人の希望を取り入れ、ご家族の意向も確認しながら把握に努めている。	本人や家族から得た入居に当たっての思いや暮らし方、これまでの趣味・嗜好などをできる限り把握するように努めている。また、日々の行動や表情、入浴時の会話などから思いや意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族からのヒヤリング・ご本人の訴えをよく聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や就寝時間、一緒に行えることは何か、個々に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者の一存ではなく、職員からの意見を吸い上げながら作成している。	利用者の身体状況や本人・家族の意向を踏まえ、カンファレンス時に計画作成担当者と担当職員による話し合いで介護計画を作成している。また、モニタリングや本人の状態変化等に応じて介護計画の見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は日々行っており、計画作成担当者との情報共有が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ご家族と確認を取りながら、出来る事は取り組んでいただけるよう努めている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人の方の訪問や、個々が必要としているニーズを活用し、その方らしい生活が出来るよう、調整を行いながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診については、基本的にご家族へお願いしており、必要に応じて近況の報告や、スタッフも同行して受診が出来るよう体制を構築している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。付き添いは基本的に家族が行っているが、緊急時や家族からの依頼時には職員が同行している。また、受診状況は家族と事業所で共有しケアに活かしている。月1回の内科、週1回の歯科往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師、他事業所の看護師と協力しながら、状況変化の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院が決まった場合には、早期に対応出来るよう状況の確認や把握に努めている。普段からの関係作りは、一部の入居者しか出来ていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの著しい低下や、共同生活が困難になってきた場合には、その旨ご家族へ相談をし、どのようにしていったら良いか、話し合いをしている。	入居時に、重度化した際や終末期における可能な対応を利用者や家族に説明している。出来る限りチームでケアしているが、事業所での生活が困難になった場合は、かかりつけ医と連携し、家族と相談しながら今後の対応を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法について事務所内への掲示はしているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応方法については、マニュアルを作成し事務所内に掲示している。地域の協力体制は構築出来ていない。	全職員が災害対応マニュアルを了知している。消防署も参加した年2回の消防訓練と夜間を想定した避難訓練を実施し、消火器の使用方法や避難経路の確認を行っている。また、非常災害時に備え、飲料水や食料品の備蓄も行っている。	ホームは2階にあり、職員のみで利用者の避難等に対応するのが困難と思われる。ホームの夏祭りや文化祭に地域住民を招待するなど日頃からの交流を深め、避難訓練への参加や災害発生時に近隣住民の協力を得られる体制づくりを期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが上からの目線にならないよう、呼称は苗字で行う事を徹底し、人格の尊重に努めている。	毎月のミーティングや朝礼時に利用者への言葉使いや接し方を話し合い、尊厳やプライバシーの確保など、人権意識の高揚に努めている。さりげない言葉かけやケアを心がけ、一人ひとりの誇りを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	『やって下さい』の声かけではなく、ご本人が決定出来る声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れは決まっているが、入浴の有無やレク・散歩への参加の決定は、ご本人の意思を尊重しながら行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものはご本人に選んでいただく支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けと一連の流れが一緒に行えるよう、スタッフと協力して行っている。	メニューは、利用者の嗜好を勘案し職員が作成している。出来る限り利用者と職員と一緒に食材の買出しや野菜の下ごしらえ、配膳の準備、食器拭きなどを行っている。職員は食事介助が必要な方の支援に当たっており、一緒に食事を摂る環境にはなっていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の多い・少ないは、ご家族に確認をとりながら提供しており、水分については出来る限り摂取していただけるよう、声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ずつ口腔ケアを促し、出来ない方へはスタッフが声かけ・支援している。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによってトイレ誘導を行い、夜間帯に於いても無理のない程度に時間でのトイレ誘導を行っている。	日常生活から一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや見守りを行いトイレ誘導を行っている。オムツは出来る限り使用しないようにしており、失禁時にもほかの利用者に知られないよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量の少ない方は、希望に応じて果物の摂取・食形態の配慮を行い、対応している。運動出来る機会は、常に作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴していただけるスタッフの体制をとり、極力就寝時間に近い、夕方に入浴支援をしている。	毎日夕方から入浴が出来るようになっており、利用者の体調や意向、希望時間に合わせたり、仲の良い方同士と一緒に入浴できるようにしている。また、入浴剤や季節に応じた菖蒲湯やゆず湯を使用して入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全居室がカギ月の個室になっているので、安心して休息出来る環境である。また、プラバシーへの配慮も出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は、全スタッフが必ず確認をし、服薬内容に変更があった場合には、特に注意して様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方が、出来ない方のフォローをしたり、1階のデイサービスに馴染みの方がいる入居者は、1階へ降りて気分転換が出来る環境を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には毎日散歩へ出かけられるよう環境を作っている。月に2~3回は車で外出が出来るような機会を設けている。	天気の良い日は近隣への散歩を日課としており、歩行困難な方も車椅子で外出している。また、毎月2~3回全員で、散歩コースのある公園や花の観賞スポットなどへ外出し、気分転換を図っている。	

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、事務所での保管になっているが、買い物へ出かけた時やヤクルト屋さんの訪問時には自由につかえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりは事務所の電話を使っていただき対応している。手紙のやり取りは出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、廊下は落ち着いた色にしている。壁紙に季節の物を取り入れ季節感を出すなどしながら、心地よく過ごせる空間作りをしている。	リビングなどの共用空間は、自然採光を活用し、明るく落ち着いた色彩で、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。また、共用空間には利用者の書や外出時の写真などが装飾されていて、落ち着いた雰囲気の中でゆったりとくつろげるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで過ごす方・ソファでくつろぐ方、好きなスタイルで過ごせる環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物は、自宅から持ち込んでいただき、安心して過ごせる環境作りをしている。	入居前に自宅を訪問し、利用者の以前の環境と違和感のないように、本人や家族と相談しながら、これまで使用していた寝具、テレビやテーブルなどの馴染みの品を居室等に自宅と同じ様に配置し、安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の思ったように動く事が出来、1人でも安全に生活が送れる環境である。		